

令和8年度第3回公立大学法人滋賀県立大学教育研究評議会 議事録

日時・場所： 令和8年6月2日（火）13：25～14：30 教授会室

出席者： 井手理事長（議長）、福永副理事長、森下理事、松岡理事、中嶋理事、北村理事、
須戸環境科学研究院長、徳満先端工学研究院長、市川人間文化学研究院長、
古株人間看護学研究院長、丸尾環境科学部長、田邊工学部長、
福渡人間文化学部長、伊丹人間看護学部長、中井事務局次長、
相見委員、森委員

欠席者： 宮本委員

事務局： 饗庭財務課長、寺村経営企画課長、堀口学生・就職支援課長、川崎教務課長、
小椋地域連携・研究支援課長、堀江高専開設準備局次長、吉田総務課長、松村
係長、横田主査

令和8年度第2回公立大学法人滋賀県立大学教育研究評議会議事録（案）について、原案
のとおり承認された。

議 題

審議事項

1 第4期中期計画の進捗管理・令和7年度計画進捗状況・令和8年度計画等について

2 令和7年度事業報告について

寺村経営企画課長より資料に基づき説明があった。

[主な意見・質疑等]

・昨年度末に実施された企業向けアンケートでは、貴学の卒業生はどのような評価を受けていたのか。

→総じて真面目でコツコツ努力できるという評価をいただいている。語学はどれくらいのレベルが必要なのかなど社会人として求められるスキルも尋ねており、分析結果を学部・学科再編の、特に全学共通教育の見直しに活かしていきたいと考えている。

3 学部・学科再編の方針について

寺村経営企画課長より資料に基づき説明があった。

[主な意見・質疑等]

・貴学にとって大きなチャレンジであり、様々な議論をいただいている。再編に当たっては、学生や教員が誇りを持てるとともに、対外的にアピールできるキャッチフレーズがあるとよいと思う。

・全学共通教育への言及が弱いのではないか。全学共通教育という基盤があつてこそその専門教育である。例えば、全学共通教育の組織改編や日本語教員養成についてはこの方針案の中で言及されているのか。

→日本語教員養成については、資格課程としての導入を想定しており、「多文化共生にかかる科目を新たに設ける」との記載に含めている。全学共通教育への教員配置を手厚くすることは考えているが、組織改編までは想定していない。全学共通教育の重要性は認識を共有しており、担当部会で検討を進めているところである。

報告事項

- 1 人事異動について
井手理事長より資料に基づき報告があった。
- 2 令和7年度卒業・修了者の進路状況等について
堀口学生・就職支援課長より資料に基づき報告があった。
- 3 令和8年度在籍学生数の状況について
堀口学生・就職支援課長より資料に基づき報告があった。
[主な意見・質疑等]
 - ・トランスジェンダーの学生もいるので、男女別集計のあり方を見直す必要があるのではないか。→必要性は認識しており、トランスジェンダーの学生については、本人の性自認に基づいて集計している。一方で男女別の数値は様々な統計の基礎となっているため、直ちに集計方法を変更することは困難である。
- 4 各委員会の結果の概要について
 - (1) 令和8年度第1回衛生委員会
 - (2) 令和8年度第1回国際交流委員会
 - (3) 令和8年度第1回入学試験委員会